

中国電影大觀



インファナル・アフェアⅢ／終極無間

2005(平成17)年4月16日鑑賞(梅田ブルク7)

監督・撮影＝劉偉強^{アンソニー・ラウ}／監督・脚本＝麥兆輝^{マウ・マウ}／出演＝梁朝偉^{トニー・レオン}／劉德華^{アンディ・ラウ}／黎明^{レイモン・ライ}／陳道明^{チェン・ダオミン}／陳慧琳^{ケリー・チェン}／黃秋生^{アンソニー・ウオン}／曾志偉^{セン・チー・ワイ}／杜汶澤^{トニー・レオン}／陳冠希^{アンソニー・ラウ}／余文樂^{ユウ・マン・ラク}／劉嘉玲^{レスリー・チェン}／鄭秀文^{アマンダ・マン} (コムストック配給／2003年中国〈香港〉映画／118分)

第1章

ハリウッドも顔負け!?

……『インファナル・アフェア』の3部作が遂に完成！ その壮大なスケールにはビックリだが、複雑に入り組んだストーリーを理解するには、よほど勤勉な勉強が必要……？ 表面ヅラの面白さに終わらせないため、パンフレットを購入し、それを読みこなすことをお勧め。観客は梁朝偉派と劉德華派に分かれること必至だが、あの張國榮^{レスリー・チェン}が生きていたら、果たしてどんな役を……。『ゴッドファーザー』を彷彿させ、永く心に残るであろう香港映画の大作誕生に大拍手！

■ 構想の壮大さにビックリ

『インファナル・アフェア』3部作はIとⅢが同時に構想され、途中で主人公たちの秘められた過去を描くというⅡが挿入されたとのこと。したがってⅢは基本的にはIの続編になるものだが、Ⅲでは新たに、本土の密輸商人シェンが登場する。このシェンに扮するのは『HERO』(02年)で始皇帝役を演じたチェン・ダオミン。途中、足を撃たれるものの最後まで生き残るというおいしい(?)役。またIで組織犯罪課のウォン警視(アンソニー・ウォン)と対立していた、保安部のヨン警視(レイモン・ライ)の登場シーンがⅢでは多い。と言うよりⅢでは、ラウ(アンディ・ラウ)とこのヨンとの確執が大きなテーマ。さらにヤン(トニー・レオン)はIですでに殉職してしまっているため、その取扱いが難しい(?)ところ、Ⅲでは回想シーンを多用したり、幻想シーンの中に現れさせることによって、ヤンも結構数多く登場する。

この映画の基本的な人物設定は、潜入捜査官のヤンと潜入マフィアのラウだから、こりゃ当然。

ケリー・チャンがおいしい役！

Ⅱではラウから想いを寄せられながら、サム（エリック・ツァン）の妻として、男勝りの活躍（？）を見せるマリー（カリーナ・ラウ）が紅一点として輝いていたが、Ⅲでは女性陣のスポットライトは、専ら精神科医のリー（ケリー・チャン）にあてられている。このリーは、Ⅰでは10年間も潜入捜査官としての仕事を続ける中で疲れ果てていた（？）ヤンを、やさしく受け入れてくれたただ1人の女性。もちろん2人は、医師と患者という関係だから、お互いに心惹かれながらも結ばれることはなかったが、精神科医であるリーがパソコンに収めているカルテには、当然ヤンの秘密が数多く書き込まれていた。

内務調査課に復帰したラウが、生前のヤンの行動を調べるためには、このリーに近づくのがベスト。そこでⅢにおいてラウがとった行動は？ そのやり方はかなりズルイ（？）ものだが、そんな細工に気が付かないリーは、ただ一途にラウに協力し……。回想シーンと幻想シーンが入り交じった、リーをめぐるヤンとラウの絡みは、ちょっと理解しにくい面はあるが、最終的にはなるほどと納得できる出来。それにしても、香港を代表するトニー・レオンとアンディ・ラウの2人を患者として治療し、心を通わせる若き美貌の精神科医リーは、何ともカッコよくておいしい役……。

あなたはヤン派？ それともラウ派？

警察官であるヤンは10年間も潜入捜査官の任務を続けているから、内心に秘めた「警察官根性」は変わらない（？）ものの、その姿かたちや行動パターンは、マフィアそのものに染まっている。その結果、ボスであるサムからの信頼も今や抜群……。

他方、若くしてマフィアの構成員となっていたラウはその優秀さを見込まれ、警察内部に潜入すべく、香港警察に入隊し卒業した後は今や内務調査課の課長に昇進。ラウも内心に秘めた「マフィア根性」は変わらない（？）ものの、その姿かたちや行動パターンはすっかりエリート警察官。そして上司のウォン警視の信頼も抜群……。

ヤクザ風のジャンパー姿のヤンとスーツ姿に身を固めたラウは全くの同年代だし、そのカッコ良さも甲乙つけ難いもの。したがって『インファナル・アフェア』のファ

ンはⅠ、Ⅱ、Ⅲを通して、ヤン派とラウ派に二分されるはず。さて、あなたはどちら……？ 1度ファン投票をやってみれば面白いと思うのだが……？

アンディ・ラウが台湾金馬獎の主演男優賞を

Ⅰではトニー・レオンが香港フィルム・アワード（香港電影金像獎）最優秀主演男優賞に輝いたが、そのお返しのように、このⅢではアンディ・ラウが2004年第41回台湾金馬獎の最優秀主演男優賞を受賞。不眠不休で保安部のヨン警視を監視するラウ、リーを通してヤンの調査を続けていくうちに自分がヤンだという錯覚に陥るラウ、そしてヨンとの究極の対決に臨むラウ、そんなさまざまなラウの人物像をアンディ・ラウが見事に演じているから、その受賞も当然……。

ハリウッドのリメイク版は超豪華だが……

香港をはじめ全世界で圧倒的な人気を博した、この『インファナル・アフェア』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはハリウッドでリメイクされることになったが、その監督はマーティン・スコセッシと決定。『ギャング・オブ・ニューヨーク』（02年）でも、『アビエイター』（04年）でもアカデミー賞最優秀作品賞や監督賞を逃した悲運の監督だ。パンフレットによれば、まだハリウッドによるリメイク版のキャスティングが発表される前の2004年のカンヌ映画祭で、トニー・レオンは「ブラッド・ピットにはアンディ・ラウが演じたラウの役を演じてもらいたいな。そして僕の役ヤンは、出来ればジョニー・デップにお願いしたい」と発言したと書かれている。なんとも大胆な発言だが、たしかにそれは面白い。しかし現実……？

始動を開始したハリウッド版『インファナル・アフェア』では、ラウ役はマット・デイモンに、ヤン役はディカプリオと決定。うーん、またディカプリオか……。そしてマット・デイモンも『グッド・ウィル・ハンティング』（97年）や『レインメーカー』（97年）の頃はよかったが、最近はもうひとつ……。果たしてこのスコセッシ監督の決定の是非は……？ またしてもアカデミー賞にノミネートされただけで終わらないことを期待したいものだが……。なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通じて面白いキャラで存在感を見せつけてきたマフィアのボスであるサムを演じたのはエリック・ツァンだったが、ハリウッド版ではそのサム役はジャック・ニコルソンになったとのこと。こりゃ楽しみだ。

もしレスリー・チャンが生きていたら……

『インファナル・アフェア』の主人公はヤンとラウの2人だが、トニー・レオンは1962年生まれ、アンディ・ラウは1961年生まれのほぼ同級生……。そして、1956年生まれだから彼らの少し先輩であり、頭1つも2つも抜き出た人気を獲得していたのがレスリー・チャン（張國榮）。『欲望の翼』（90年）、『樂園の瑕』（94年）、『ブエノスアイレス』（97年）等でトニー・レオンやアンディ・ラウと共演しているが、それらの作品で1番目立っているのはやはりレスリー・チャン。アイドル歌手でもあった彼は2003年4月に死亡するまで、50本以上の映画に出演しており、『さらば、わが愛／霸王別姫』（93年）や『追憶の上海』（98年）などの名作も多い。

そんなレスリー・チャンが生きていたならば、香港映画としてはじめて『ゴッドファーザー』（72年）と同じような壮大なスケールの叙事詩を目指した『インファナル・アフェア』において重要な役が与えられたことはまちがいないはず。しかしその立場は非常に微妙で難しい。

ヤンとラウは警察学校の同期生だし、若きヤンを演じるショーン・ユーと若きラウを演じるエディソン・チャンも約20年間若返らせたほぼ同級生で、実にバランスよく配置されている。そこにレスリー・チャンをどう割り込ませるのがベストか……。？ 場合によれば、トニー・レオンかアンディ・ラウのどちらかを1歩引かせるか……。？ それは何とも微妙で難しい判断。「ないものねだり」とわかりつつ、「もしレスリー・チャンが生きていたら……」と思うのは、私1人ではないと思うのだが……。？

2005(平成17)年4月18日記